



撃ます屈せずがんばろう釜石！

鵜住居地区

発行：平成 26 年 9 月
発行元：釜石市復興推進本部

復興まちづくり協議会・地権者連絡会 ニュースレター

復興まちづくり協議会・地権者連絡会を開催しました

鵜住居地区における復興事業のうち、ラグビーワールドカップ開催都市立候補について説明し、参加者の皆様と意見交換を行いました。

開催概要 開催日：平成 26 年 8 月 10 日（日） 時間：18：30～19：40
場所：鵜住居小学校体育館 参加人数：25 人



ラグビーワールドカップ開催都市立候補について

防潮堤整備や区画整理を進めつつ、子ども達に将来の明るい夢・希望、世界や周りの人たちとつながるという夢・希望を育むことをを目指し、釜石市はラグビーワールドカップ開催都市に立候補します。

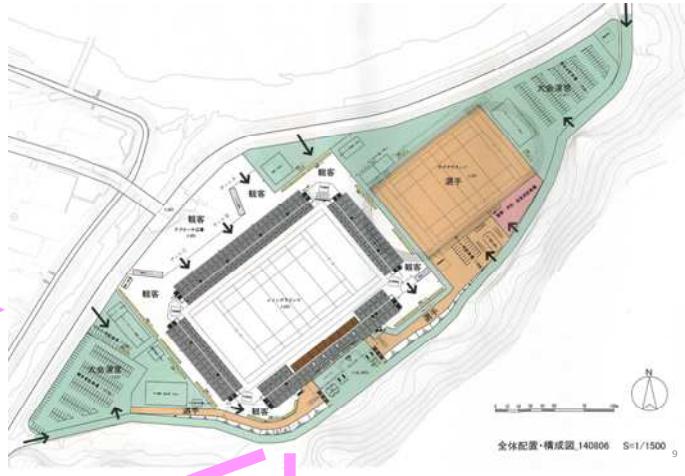
片岸海岸防潮堤・鵜住居川水門



鵜住居川河口に水門と
セットで防潮堤を設置
整備高さ14.5m
※現況防潮堤高さ6.4m
(約8.1mのかさ上げ)

【別資料 6 ページ】

全体配置図



【別資料 5 ページ】

スポーツセンター（仮称）整備イメージ

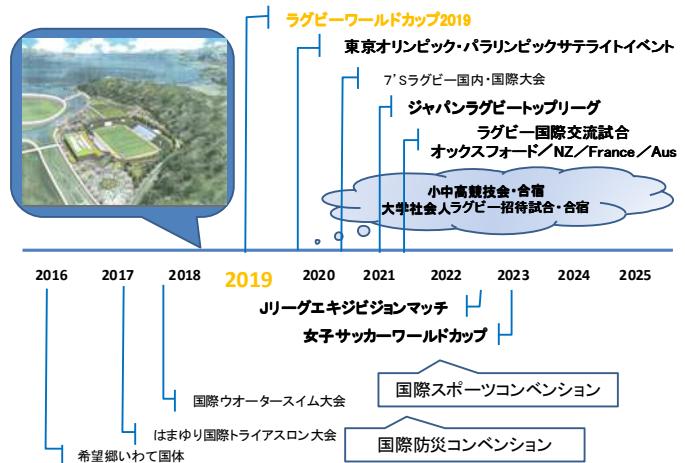
＜釜石市鵜住居スポーツセンター（仮称）＞
メイングランド、サブグランド
陸上トラック(400m×6コース)

震災で失った体育施設の面積相当の敷地と
して、鵜住居小、釜石東中跡地に、復興資
材で土地をかさ上げして、ラグビー場1面と
陸上トラックを有したサブグランド1面分の
広場を建設します。



＜費用概算＞（単位：百万円）
常設施設建設費 867
仮設施設費用 スタンド 126
照明 60
スクリーン 78
テント・フレハブ 87
合計 1,218

スポーツセンター（仮称）フル活用タイムライン



【別資料 4 ページ】

【別資料 9 ページ】

このような意見をいただきました

- 子ども達のこれからのことと説明があったので、教育長にお聞きしたい。ラグビーワールドカップ誘致で、子ども達にどのような将来を考えるのかが聞きたい。

子ども達は、大人に迷惑を、親に心配をかけてはいけないと、一生懸命勉強をし、友達を思い、体力を付けて頑張ってきました。しかし、頑張ることだけでなく、世界や周りの人たちとつながるという子ども達の夢・希望を育むことも必要だと思います。また子ども達は、もっと羽ばたきたいという願いを持っています。世界遺産もそうですが、ラグビーワールドカップ誘致は絶好のチャンスであり、郷土への誇り、自信を持ってもらうために必要であり、これが誘致の一番の狙いです。



- 先ほど私は、ラグビーワールドカップ誘致で復興促進が図られるという挨拶をしたが、市はどう考えているのか？間違いなく復興の後押しになるのか確認をしたい。

(市長)：今回の立候補が復興の後押しになるかですが、私はその通りだと思います。先日も国へ統一要望に行きましたが、その際もこういう1つの目標があると、東京にいる人にも伝わりやすいです。「復興を早く」との要望でも、具体的な目標を掲げると「いつまでに道路、防潮堤を造らなければならない」ことがはっきりとわかります。それが復興の後押しになると思います。

例えば、JR山田線の復旧も思うように前に進みませんが、これも同じです。一つの目標があれば、それに向けて皆の考え方や想いが一つになります。国なのでやってくれると思いながらも、具体的な目標を掲げて取り組む手段が必要だと考えます。国に理解してもらうには、具体的な手段や目標を掲げながらの総合的なお願いが有効であり、そういう意味で今回のワールドカップは復興の後押しになると思います。

ただ、今資材が高騰したり、スケジュールどおり物事が進まない状況です。しかし、頑張らないといけませんから、やはり目標を掲げて、我々は頑張っていくんだということを全国に発信するほうが、釜石のエネルギーにつながると思います。

- 市民の方と話すると、ラグビー場を造る予算が復興交付金でまかなわれるのではないかと誤解されており、それで反対という方が多い。使うお金が違うので、復興が遅れないこともきちんと説明してほしい。

必要となる12億円はtotoくじなども扱っているスポーツ振興センターに、復興交付金とは違うお金をお願いしています。あとは、今後ワールドカップ誘致が決まる際に、寄付を皆様にお願いするとか、県、国にもお願いをしますので、復興に用いるお金とは別枠で集める算段をすることをご理解いただければと思います。



- 被災者が仮設住宅から出て、公営住宅や自分の住宅で暮らしていればこんなに反対はないかもしれないが、皆が心配するのは「ラグビーワールドカップを行い、終わった後に、釜石の財政が競技場の運営・維持費で圧迫され、自分たちの税金が増えるのではないか」ということである。お母さん達は「人口が減るこれから財政面で大丈夫なのか」を心配しており、その説明ができれば皆喜んで「いいね」になると思うが、そのあたりはどうなのか？

(山崎副市長)：議会でも同じような質問が出ました。私たちはまちづくりを進める上で、被災で何が足りなくなったかを考えます。公共施設では子ども達のグラウンドや体育館が無くなった訳です。そのため、市としてまずそれを復旧すること、あるいは子ども達の将来を考えた時に、スポーツをする人、見る人のために建てることは義務だとお考えいただきたいです。

今回ワールドカップを誘致しますが、グラウンド等を造るので当然その維持管理費はかかります。大施設を造って無駄になるのではないか、維持管理費が多くかかるのではないかと皆さんは心配されていると思います。私たちは造る以上、他の大会を誘致したり、合宿など子ども達がスポーツに携われる様々な機会を作り、可能性を追求して具体的、効率的な運営をしなければいけないと思っています。

施設を造ることでお金がかかるという話が先行しますが、それを有効活用してお金を生み出すことも必要と考えます。交流人口が子ども達を育てる環境づくりも必要なことをご理解いただければと思います。

復興事業については、できる限り皆様の期待に応えられるよう進めていきたいと思います。
1日も早く工事を完成させたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。



復興計画の事業進捗等については復興新聞や
市のホームページでも公開しています。
あわせてご覧ください。

■協議会等に関するお問い合わせ

釜石市復興推進本部

TEL: 0193-22-2111(内線 132)

FAX: 0193-22-6120